



# 静岡市社会福祉協議会 子どもの貧困・引きこもり等の調査研究事業 報告書（概要版）

静岡市社会福祉協議会（以下、静岡市社協）では、2023～2024 年度に不登校の状態の子ども達の生活状況や意見をもとに、地域福祉の立場から何が出来るかを考えるための調査研究事業に取り組みました。それを踏まえ、必要な取り組みを報告書にまとめました。今後、地域のみならずと一緒に子ども達が安心してすごせる社会をめざしとりくんでいきたいと思ひます。

2023 年 11 月

## なぜ、この事業にとりくんだの？

地域の方々が、学校を休んでいる（不登校の状態の）子どもと出会い、平日昼間の時間に“いっしょに過ごそうよ”と声をかけ、子どもと共に過ごし始めてくださったことが、キッカケでした。

それを受け、静岡市社協が、学校を休んでいる子ども達にとって、どんな地域（町）になったらよいかを考えるための調査研究にとりくみました。

## なにをやったの？

以下のことに取り組みました。

- ①平日昼間に子ども達が過ごせる居場所をつくりました（常設居場所のモデル実践）。
- ②不登校の状態の子どもと家族の声を聴かせていただきました（当事者実態調査）。
- ③とりまく地域の方々がどういう意識なのかを調べました（地域の意識調査）。
- ④各活動をもとに、どんな取組が必要かを考えました（検討会議での分析とまとめ）。

## 主催・協力

主催 社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会 清水区地域福祉推進センター

〒424-0807 静岡市清水区宮代町1番1号 清水社会福祉会館内  
電話 054(371)0291 FAX 054(367)2460  
メール shimizu@shizuoka-shakyo.or.jp

協力 子どもの貧困・引きこもり等の調査研究事業検討会議 [※]

船越地区社会福祉協議会  
特定非営利活動法人 泉の会



[※] 子どもの貧困・引きこもり等の調査研究事業検討会議

今回の調査研究を様々な立場から検証し必要な支援を検討し報告書をまとめました。

- ・構成メンバー：研究者(不登校児支援、地域調査)、当事者(保護者、LGBTQ)、居場所活動実践者、社会福祉法人、教育関係者(教員、スクール・ソーシャル・ワーカー)、一般(株式会社経営者)、児童館
- ・実施時期：2022 年 8 月～2023 年 11 月

## 【地域資源と協働し 常設居場所をモデル的に実践】



○ねらい：不登校の状態のこども達が過ごせる居場所をつくる。

○実施内容：清水区内の2か所で、月曜日～金曜日の10:00～15:00に活動。

○活動内容：おしゃべり、ゲームなどの遊び、一人で過ごす、畑など外出活動、食事など。

○参加するこどもとスタッフとの関わりやこどもの様子を記録し、どんな居場所が必要か考えた。

○詳細内容

	実施主体	場所	日数	参加者数
A	地区社会福祉協議会	一戸建て (賃貸借物件)	196	参加したこども7人 (延べ人数114人)
B	特定非営利活動法人	地域交流スペース	237	参加したこども16人 (延べ人数234人)



〈実際の活動の様子〉



清水区内2カ所で居場所活動を行っています。活動に関心がある方、参加してみたい方はどうぞご連絡下さい。(参加条件はありません)ボランティア参加もお待ちしています。

静岡市社会福祉協議会清水区地域福祉推進センターまで  
電話 054-371-0291 FAX 054-367-2460  
メール shimizu@shizuoka-shakyo.or.jp

### 活動を通して気づいたこと

メールアドレス  
二次元コード



○待っていてくれる人の存在があることで、こどもが安心して参加してくれた。

○こどもが好きなこと・やってみたいことなどをしたり、やったことがないこと・やってみたいことにチャレンジしたりし、楽しくすごせた。

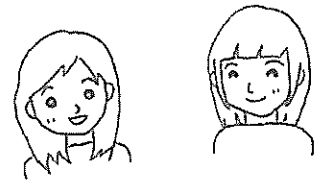
○参加につながっていないこどもがいる。

○ご家庭をふくめて困っていることがあれば、不安な気持ちを受け止めて、ひとりで悩まずに一緒に考えていけるようサポートが必要。

## 2

### 【相談支援機関・民間団体と協働し 当事者実態調査を実施】

- ねらい：不登校の状態の子どもと保護者の生活の様子と気持ちを知る。
- 対象者：居場所につながっている、または関係機関を通じてつながっている不登校の状態の子どもと保護者。
- 実施方法：ア. インタビュー調査。静岡市社会福祉協議会及び場のスタッフが実施。  
イ. アンケート調査。  
調査票「普段の生活についてのアンケート」
- 実施数：子ども23人、保護者15人
- 実施時期：2023年1月～4月



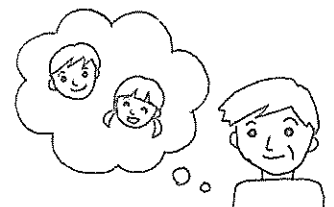
#### 調査を通して気づいたこと

- 不登校の状態の生活で「(何となく) これでいいのかなあ…」という不安な気持ちを抱えている子どもがいる。子どもの気持ちや希望を聴くことが大切。
- 7割の子が「誰かと一緒に過ごす所に行きたい」と回答。
- 保護者の多くが「どうしよう、誰にも相談できない」と孤立感を抱えている。
- 子どもが不登校になり仕事や家族関係に大きな影響を受けたり、困りごとを抱えているご家庭があるのでサポートが必要。

## 3

### 【広く地域の方々の意識を把握するための 地域の意識調査を実施】

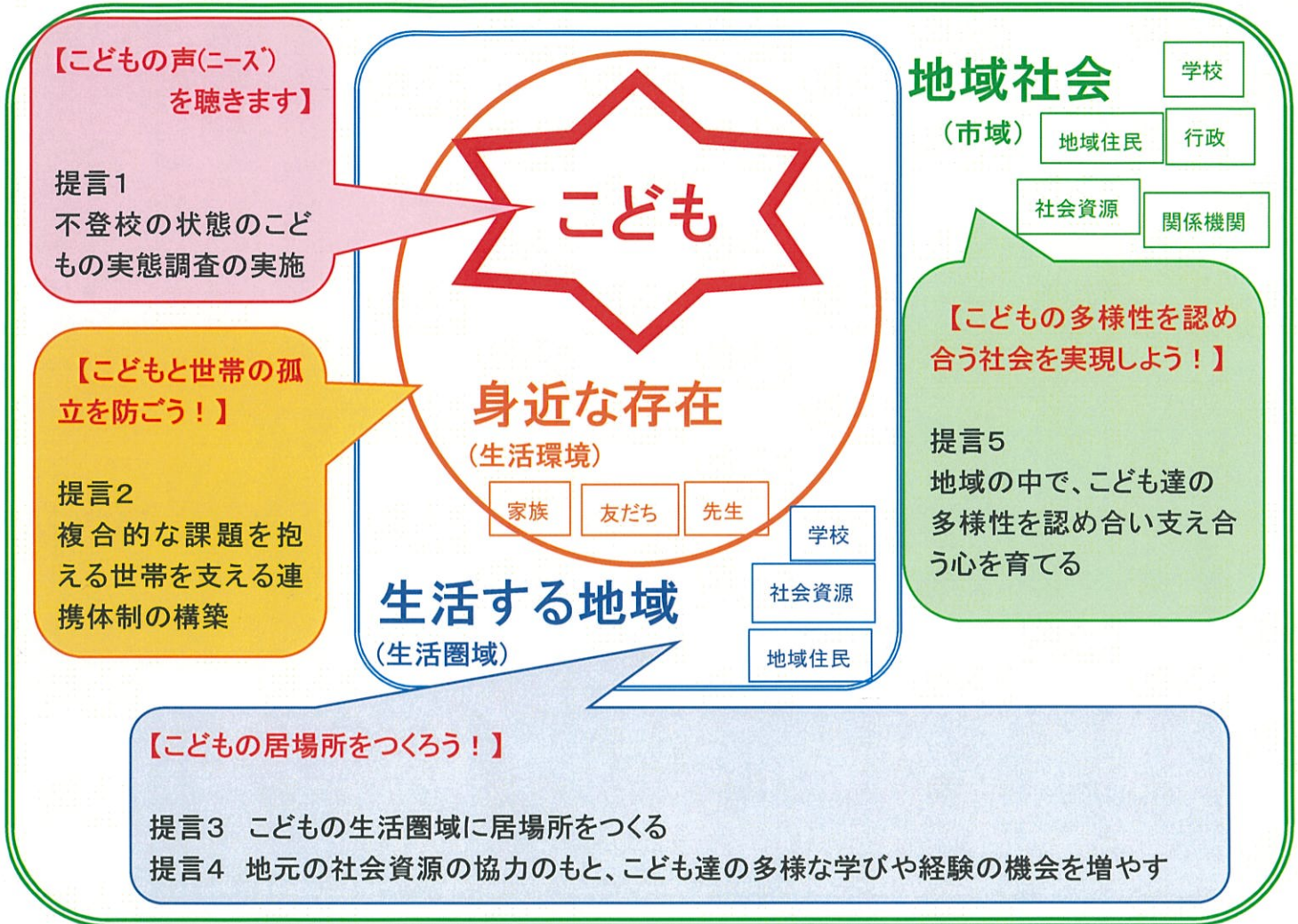
- ねらい：地域に住む方々が、このテーマについてどんな考えや気持ちなのかを知る。
- 対象者：居場所がある4つの学区に住んでいる、または仕事をしている人。
- 実施方法：アンケート調査（無記名方式）。  
調査票「地域に暮らす子どもたちの生活に関するアンケート」
- 実施数：配布数 1,844、回答数 662、回答率 35.9%
- 実施時期：2023年1月～4月



#### 調査を通して気づいたこと

- 子ども達が生きづらさを抱えていることは、まわりから見えづらい。
- 地域の方々は、子どもの福祉課題に関心はあるが情報がない。
- 子どもに関わりたいと思っている方は多い。

がっこう いて だいじょうぶ こえ き  
 学校に行っていなくても大丈夫。あなたの声を聴かせて。  
 ちいき つながり  
 地域に、こどもの居場所をつくろう！



5つの提言

- (1) 当事者である こどもの声（ニーズ）を聴きます  
 提言1：不登校の状態のこどもの実態調査の実施
- (2) 身近な存在（生活環境）に対して こどもと世帯の孤立を防ごう！  
 提言2：複合的な課題を抱える世帯を支える連携体制の構築
- (3) 生活する地域に こどもの居場所をつくろう！  
 提言3：こどもの生活圏域に居場所をつくる  
 提言4：地元の地域資源の協力のもと、こども達の多様な学びや経験の機会を増やす
- (4) 地域社会で こどもの多様性を認め合う社会を実現しよう！  
 提言5：地域の中で、こども達の多様性を認め合い支え合う心を育てる